

平成 3 0 年 度

教 育 委 員 会 臨 時 会 (8 月) 議 事 録

四條畷市教育委員会事務局

教 育 委 員 会 臨 時 会

1 開催日時・場所

平成30年8月2日(木) 10時00分から11時30分
四條畷市役所 本館 委員会室

2 出席委員

教 育 長	森田 政己
教育長職務代理者	山本 博資
委 員	吉田 知子
委 員	竹内 千佳夫
委 員	小田 みゆき

3 事務局出席者

教育次長兼教育部長	開 康成	都市整備部上席主幹	藤井 道幸
教育部次長 兼学校教育課長	上井 大介	施設再編室長 兼 課 長	南森 淳一
教育総務課長	板谷 ひと美	教育総務課	織田 紗樹
教育部上席主幹(教育総 務担当)兼学校教育課人 権教育・教科指導担当課 長兼教育センター長	木村 実		井上 裕可

4 議事録作成者

教育総務課 井上 裕可

5 付議案件

議案第12号 四條畷南中学校を含む今後の学校再編整備について

森田教育長

只今から、8月の教育委員会臨時会を開催いたします。
それでは、四條畷市教育委員会会議規則第5条第2項の規定に基づき、会議録署名者の指名を行います。
本日の会議録署名者は、竹内委員にお願いいたします。

板谷教育総務課長

本日の臨時会に際しまして、8月1日付けで教育委員会あてに、無駄遣いをやめ地域を大切にする条例制定運動代表の横溝様、早田様から、学校統廃合の見直し検討のあり方に対する意見書の提出がありましたので、机上配布しております。
以上、報告でございます。

森田教育長

それでは議事に入ります。
議案第12号 四條畷南中学校を含む今後の学校再編整備についてを議題といたします。
本日は、6月の総合教育会議のなか、市長と共有を行った7つの学校再編整備案について、上半期中に一定の案を取りまとめるべく、教育委員会の総意として複数案を抽出するため、皆さまにお集まりいただきました。
後、意見交換を行うにあたりまして、まず私からこれまでの近々の取組みについて整理させていただきたいと思っております。

4月から、四條畷南中学校の休校にあたりまして、四條畷中学校に通う生徒、保護者の心的、経済的負担の軽減を趣旨に、通学路の安全対策や制服補助の実施など、考え得る万全の対応にあたるとともに、生徒、地域、保護者の皆さまからいただくご意見、ご要望に可能な限りお応えすべく、教育委員会による環境整備に加え、現場教員による生徒への丁寧な関わりにより、円滑な転籍に向けて、その種々の取組みを進めてまいりました。

これらについては、先般、四條畷中学校の生徒、保護者を対象に、平成30年度からの学校生活に関するアンケート調査及び意見交換会を実施し、その検証を行ったところでございます。

また、併行して、平成29年1月の総合教育会議におきまして、公共施設の配置を趣旨とした四條畷小学校の廃校は行わないとの考えを市長及び教育委員会で共有したことを受けて、これを以降の学校再編整備に反映すべく、これまでいただいた様々なご意見等を踏まえ、考え得る再編整備案を7案に取りまとめ、6月20日の総合教育会議の場で共有を図ったところでございます。

この度、7月下旬に公共施設等劣化度診断調査及び四條畷南中学校敷地内活断層調査の結果が出たことから、昨年実施の市民5,000人を対象とし

<p>(森田教育長)</p>	<p>た教育環境整備に関するアンケート調査の結果と併せ、7つの再編整備案を複数案へと絞込みたく、6月以降、教育委員の皆さまと協議を重ねてきた結果を、本日、この場で集約してまいりたいと思います。</p> <p>それでは、この7つの案の絞込みに際しまして、重要な要素となる、教育環境整備に関するアンケート調査及び平成30年度からの学校生活に関するアンケートの結果並びに公共施設等劣化度診断調査及び四條畷南中学校敷地内活断層調査の結果について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>木村教育部上席主幹</p>	<p>私の方からは、5,000人アンケートについてと、四條畷中学校における学校生活アンケートの意見交換会の概要につきましてご報告させていただきます。</p> <p>まず、5,000人アンケートについてです。</p> <p>平成29年3月に行われた総合教育会議のなか、小学校の再編のあり方について、幅広い年齢層に対するアンケートを通じて、市民の皆さんの思いや考えを伺っていくことを主旨に実施することを確認しました。実施にあたっては、対象を20代～60代の年代別無作為に1,000人ずつ、合計5,000人とし、期間を平成29年4月20日～5月24日とし、回収数は1,788通で回収率は36.0%となりました。</p> <p>アンケートの結果といたしましては、まず、『よりよい教育環境として望むこと』につきまして、回答の多い順に、「安心、安全な校舎」、「教員の指導力」、「防犯対策」、「通学距離」、「道德教育」となりました。</p> <p>教育環境整備計画に賛同できる順に、多い順に、「老朽化した校舎の改築」、「小規模校の解消」、「校区のねじれ解消」となりました。</p> <p>『計画に対して不安に思うこと』について、回答の多い順に、「通学路の遠距離化」、「転籍による心的負担」、「通学路の安全」、「転籍による家計への負担」となりました。</p> <p>自由記述には、通学路の安全を確保、四條畷小学校の存続を望む声、通学路の遠距離化、教員の指導力向上等についての意見がございました。</p> <p>続きまして、四條畷中学校における学校生活アンケート及び意見交換会についての報告をさせていただきます。</p> <p>平成30年度において、四條畷南中学校の休校に伴い、その大半の生徒が転籍した四條畷中学校において、転籍後の状況や生徒と保護者の意見等を把握し、その内容を今後の南中学校のあり方や小学校再編を含む教育環境整備計画の方向性を定める基礎資料として収集を行いたく、全生徒、全保護者を対象にアンケート及び意見交換会を実施いたしました。</p> <p>まず、アンケートを進めるにあたっては、生徒保護者723人へ配布、期間を平成30年6月28日～7月9日とし、回収数、回収率につきましては生徒数680通、94.1%、保護者につきましては440通、60.9%</p>

(木村教育部上席
主幹)

でした。

アンケートの結果として、『四條畷中学校の学校生活についてどのように感じていますか』の「変わらない」を含む肯定的解答といたしまして、「新しい友達が増えた」、「授業が楽しみ」、「学校に行くことが楽しみ」、「クラブ活動が活発」など、どの項目においても生徒、保護者ともにほぼ90%となり、総じて良好な結果と認識しております。

畷中学校へ転籍した生徒保護者を対象に授業やクラブ活動、通学や学校のルールなど転籍の不安について尋ねたところ、生徒は不安がない又は解消されたがほぼ9割となっていますが、保護者についてはまだ不安が残るが3割から6割となっており、生徒と保護者の受止め方に差異が見られる結果となりました。

『今後どのようなことを望みますか』につきましては、生徒の回答の多い順に、「わかる授業」、「安心、安全な校舎」、「多くの友達との交流」、「防犯対策」、「通学距離」でした。保護者の回答の多い順に、「わかる授業」、「安心、安全な校舎」、「防犯対策」、「少人数指導の充実」、「英語教育」となりました。

自由記述には、生徒からは学校のルールや授業、施設、設備について、通学方法や通学距離についての意見が、保護者からは生徒同様の意見に加え、地震や風水害の対応について、南中学校からの転籍に伴う対応についての意見が寄せられました。

次に、生徒との意見交換会は、平成30年7月2日(月)、16時から四條畷中学校視聴覚室にて行いました。生徒の参加者数は18人、主な意見として学校のルールについて、活断層調査の結果を含む南中学校の今後について、意見交換会での回答の仕方について等の意見が寄せられました。

最後に、保護者との意見交換会は、平成30年7月11日(水)、四條畷市民総合センター大ホールにて行いました。保護者の参加は17人、主な意見として、生徒との意見交換会の概要について、アンケート結果の周知方法について、通学路について、通学方法についてなどの意見が寄せられました。

南森施設再編室長

私の方から、南中学校の敷地内の活断層調査結果について、及び公共施設等劣化診断調査結果の2点につきましてご報告させていただきます。

まずは、活断層調査の結果についてご説明申し上げます。

内容の説明にあたりましては、A3カラー刷りの2枚と、学識経験者の所見の計3枚の資料を用いてご説明させていただきます。

本活断層調査につきましては、平成30年4月2日から7月31日までを調査期間に、ボーリング調査を主として、トレンチ調査を併用させながら実施いたしました。また、ボーリング調査で採取いたしました土壌試料により各種分析を行ったところでございます。

(南森施設再編室長)

A3カラー刷りの1枚めをご覧ください。

調査の方法につきましては、ボーリング調査をNO. 1からNO. 8の8箇所、それぞれ記載している深さまで掘削しております。

また、これに加えてトレンチ調査を2箇所、それぞれ記載の長さ、幅及び深さで実施しております。

頁の左面の中段にも記載していますように、試料分析について、花粉分析、火山灰分析及び放射性炭素年代分析とトレンチ調査をそれぞれ行った結果といたしまして、2枚めの資料右上に記載しております、「推定される活断層のゾーン」として、幅約26mで活断層とみられる地層の変形が確認することができました。

地層の変形状況図につきましては、同じく2枚めの左下にあります、拡大図をご覧くださいと思います。

ボーリングNO. 4とNO. 2との間において、図に示しているように、2万7,500年前の地層が約1.15m変形していることが確認できます。

恐れ入りますが、1枚めの資料に戻っていただきまして、花粉分析の結果といたしまして、一番東側のボーリングNO. 2の深さ50mから60m付近に、右側中段の青い波線のところがございますが、有機質帯から、亜寒帯を示す花粉化石が発見されました。

一方、NO. 2と同程度の深さで採取しました、一番西側のボーリングNO. 1からは、亜寒帯を示す花粉化石が発見されませんでした。

このことから、NO. 1とNO. 2との間におきましても、約20～30万年前と相当古い年代になりますが、地層にズレが生じた可能性が高いと確認できたところです。

これらの調査結果から、NO. 4を起点に西側と東側の地層が連続せず、NO. 4から東側において活断層がある可能性が高いと判断いたしました。

よって、活断層が通っている位置ということで、左下の赤い線の囲み線の部分につきましては、

- ①生駒断層は学校敷地の東端付近を南北に通っている可能性が高い
- ②断層は幅(ゾーン)を持って分布している可能性が高い
- ③今回明らかになった断層の位置は、既存の都市圏活断層図に書かれている場所とほぼ一致している

ということが、本調査によって判明いたしました。

最後に、最終頁につけております、今回の活断層調査に学識経験者としてご協力いただきました、大阪市立大学大学院理学部三田村教授の所見についてご説明申し上げます。

教授からは、ただいま申し上げた調査結果について、同様の見解であると

(南森施設再編室長)

の所見をいただいているところであり、加えまして、⑥の箇所は、今後の当該敷地の利用に関し、断層をまたいだ位置及び断層近傍の施設は断層のずれによって壊れる可能性があるため、なるべく利用しないことが望ましい。

新規施設の建設時にはできる限り断層から離れた位置に建設することが望ましい。

また、敷地西側は地震波の増幅により、強い揺れが生じやすくなるため、耐震性は十分確保すべきである。

という3点を留意すべき内容としてご意見を頂戴いたしております。

以上、誠に簡単ではございますが、四條畷市立四條畷南中学校活断層調査結果の報告とさせていただきます。

続きまして、公共施設等劣化診断調査の結果につきまして、ご説明申し上げます。

こちらにも、公共施設等劣化診断調査結果の報告についての9ページの資料と、別紙1から別紙4までの資料を用いてご説明させていただきます。

まず、資料の1頁をご覧ください。

公共施設等劣化診断調査につきましては、平成29年7月20日から平成30年6月30日までの2カ年に亘り実施いたしました。

本調査は、公共施設等総合管理計画で対象とした施設の個別施設計画を策定するにあたり、現状施設の老朽化状況を客観的に把握することを趣旨とし、9頁のすぐ後ろにつけております別紙1の表がございしますが、そちらに記載されている施設を対象に、屋上、外壁、内部などの建築物の部位、部材と電気設備、給排水設備、空調設備などの設備関係の老朽化状況調査と、構造体が健全であることを確認するため、鉄筋コンクリート造の建物のコアを採取し、コンクリートの圧縮強度と中性化深さを計測するための大きく2つの調査を行いました。

これらの調査結果を一覧にまとめたのが別紙2、調査結果一覧表になりますのでそちらをご覧ください。

それぞれ施設を棟ごとに延床面積から耐震補強までのデータを基礎データとして中央あたりまで記載しており、中央からやや右に、鉄筋コンクリート造の建物に対しては1棟あたり3箇所のコアを採取し、そのコンクリートの圧縮強度の平均値を記載しております。

必要な強度が保たれているとされますのは圧縮強度が 13.5 N/mm^2 を超えているものでございまして、対象施設全てでその強度が保たれている結果となりました。

続いて、そのすぐ右隣りの列のコンクリートの中性化深さでございしますが、採取したコアに試薬を用いて、中性化の進行状況を確認いたしました。

(南森施設再編室長)

中性化深さが30mm以上の場合、コンクリートの中性化、いわゆる酸性化が進み、内部の鉄筋の腐食が進行しているおそれがあるとされています。表中の網掛けで表示しているところが、30mmを超える、該当する箇所でございます。

網掛けしている建物につきまして、内部の鉄筋が腐食している可能性があるため、コンクリート壁をハツリ、鉄筋の腐食状況を目視により確認しておりますが、いずれも腐食している状況ではございませんでした。

次に、試算上の区分という欄でございます。

長寿命化が可能な建物に関しましては、長寿命化という記載をしております。その条件としましては、その後ろ、別紙2調査施設一覧表(説明資料)のなかで、長寿命化できる施設の判断基準を記載しております。

その基準といたしまして、①構造が鉄筋コンクリート造である②建築年数が50年未満である③圧縮強度の平均値が13.5N/mm²を超える④中性化深さが30mm未満又は中性化深さが30mm以上であっても鉄筋腐食状況の評価グレードがⅠ又はⅡであることの全ての条件を満たすものが長寿命化対応可能としております。

恐れ入りますが、別紙2、調査結果一覧表に戻りまして、頁の右側部分には、現地の劣化状況の評価し、評価区分に応じて数値化を行い、建物ごとに老朽化度合いを把握するための指標として、健全度を算出いたしました。

健全度の合計点は、躯体性能の項目100点に建物の部位、部材及び設備の項目100点を加えた合計200点満点としております。

この点数は、公共施設の健全度を序列化するために市独自で行っているものであることから、何点以上なら良い、何点以下なら悪いといった基準はございません。

また、建物の部位、部材及び設備の項目である劣化状況評価におきましては、数値以外に評価区分を濃淡で示させていただきました。

評価の区分の凡例につきましては、右側頁の下部に凡例を記載させていただいております。

6頁をお開きください。

次に、(4)の将来更新費用についてでございます。

先程の調査結果により長寿命化対応が可能とした建築物に長寿命化改修工事を実施した場合の今後40年間に亘る将来更新費用を試算いたしました。

試算の条件といたしましては、(ア)試算期間から7頁の(カ)単価表までの条件をもとに、費用算定を行ったものでございます。

8頁をお開きください。

一方、長寿命化改修工事を行った場合との費用比較を行うために、②長寿

<p>(南森施設再編室長)</p>	<p>命化改修工事を実施しない場合の試算も行いました。</p> <p>こちらも先程と同様に、試算期間から単価表までの試算条件を設定のうえ、費用算定を行っております。</p> <p>(5) 将来更新費用の比較(概算)につきましては、長寿命化改修工事を実施しなかった場合の今後40年間の将来更新費用の総額は、510億円、長寿命化改修工事を実施した場合は、483.4億円となりました。</p> <p>長寿命化改修工事を実施した場合、26.6億円の削減効果が表れる結果となりましたが、これはあくまで事業費ベースの比較であり、国庫補助等の財源措置を考慮した条件とはしておりません。</p> <p>また、将来更新費用の施設ごとに長寿命化を実施しない場合と長寿命化を実施した場合とを比較した表を、別紙4、将来更新費用(詳細資料)とし、添付させていただいておりますので、後程ご確認いただきたく存じます。</p> <p>今後は、これらの調査結果に基づき、公共施設の個別施設計画を策定するに際しての基礎データに用いていく予定としています。また、今後、施設の適正な維持管理を行っていくための資料として活用してまいります。</p> <p>以上、誠に簡単ではございますが、公共施設等劣化診断調査結果についてのご報告とさせていただきます。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>只今、5,000人アンケート、南中活断層調査の結果、そして公共施設等劣化度診断の要点、それから四條畷中学校のアンケート、意見交換、これらの概要についての説明がありました。</p> <p>このことにつきまして、教育委員の皆さま、何か補填、意見等ございませんでしょうか。</p> <p>順番通りでなくとも結構でございます。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>まず、5,000人アンケートとそれから保護者、生徒へのアンケートについて意見を述べさせていただきたいと思います。</p> <p>私も保護者ですので、そちらのアンケートには参加させていただきましたし、結果も見させていただきました。</p> <p>全体的に見て、保護者と生徒の意見が少し違う、差が出るところは何か所がありました。</p> <p>最初に5,000人アンケートを取ったときには子どもたちというよりも保護者の方の意見を吸い上げることの方が多く、そのときに1番多く課題であったのは、安心、安全な校舎を作ってほしい、ということだったと思います。</p> <p>南中学校区の方たちが畷中学校区に来てからのアンケートを取ったときに、生徒の方からは、学校に馴染めた、友達が多くなったということの方が今のところは多く、とてもいい印象のアンケート結果になっていると思います。</p>

<p>(吉田委員)</p>	<p>1番差が出たのが、通学についてだったかと思います。</p> <p>生徒の方は、通学についてはあまり今不安には感じていないようなのですが、保護者の方はいつまで経ってもやはり心配なところは多いと思います。</p> <p>通学については今後も、何らかの対応はしていかなければいけないと思います。</p> <p>夏の間は明るい時間が長いのでいいのですが、これから冬になって暗くなる時間が早くなるというときに、また保護者の方も不安になってきますし、生徒の方の考え方もまた変わってくるのではないかなという風を感じています。</p> <p>それから、『今後どのようなことを望みますか』ということなんですけれども、子どもたちも保護者の方も、わかる授業をやはり希望していらっしゃると思います。そういうことに関してはやはり学校生活が落ち着かないと、授業も落ち着いて受けることができないと感じますので、これからだんだん良くなっていてもらうことを希望します。</p> <p>今後のことを望むところでの保護者と生徒の感じ方の違いとしては、友達関係、友達の交流のことだと私は感じました。</p> <p>子どもたちは多くの友達ができたととても良く感じているようですが、保護者としてはそこは少し意識が低いように感じました。</p> <p>ですので、アンケートを取ってみて、保護者の方と生徒の方で捉え方、受け取り方に少し差が出るものなのだとわかり、おもしろいところだと感じました。</p> <p>生徒と保護者の両方で高く出ているのは、安心、安全な校舎のところであり、高く求められていると感じましたので、こちらの方も今後は考えていってほしいと思います。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>四條畷中学校のアンケートについての意見でよろしいでしょうか。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>そうですね。</p> <p>5,000人アンケートとそれから中学校のアンケートを併せたものになります。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>わかりました。</p> <p>他に何かご意見ございますでしょうか。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>まず、5,000人アンケートについてなのですが、よりよい教育環境を求めるところで、もちろん安全、安心ということについては、我々も考えているところですが、意見の多いところに、教員の指導力という部分がありました。</p> <p>これについては、教育委員会としても、しっかりと教員の指導をしていか</p>

<p>(山本教育長職務 代理者)</p>	<p>なければならぬと思います。</p> <p>こういったソフト面の部分と、教育環境整備計画でも近々の課題として挙げました老朽化、それから小規模校の解消、校区のねじれ、そういう部分についての心配も5,000人アンケートのなかに表れていたと認識しています。</p> <p>続いて、南中学校の活断層についてですが、今の説明をお聞きしますと、素人の我々には判断のつきにくい要素があるのですが、先程の学識者のコメントのなかに、「好ましくない」という表現があります。</p> <p>それをなるべく利用しない方が望ましいという部分がありまして、あるいは新規施設の建設時にはできる限り断層から離れた位置に建設する、そういう文言があつて、素人の私には判断ができかねるのですが、最終さらに詳しい調査、あるいは詳しい位置関係の部分の調査する必要があるのかなと感じますが、こういう学識者の判断が出ていることから、安全、安心という部分から言いますとやはり南中学校敷地内の活断層の部分は100%安全というふうには言えないというところで、積極的にそこに学校施設を創ることについては、さらに検討しなければ、現時点で学校とはすぐにはいかないのかなと思います。</p> <p>それから劣化度診断結果につきましては、本市の健全度指標ということで、市独自の部分と言われているんですが、例えば忍ヶ丘小学校なんかはすごく健全度が低いという結果が出ています。こういうところを含めて、安全、安心な学校を創るという意味では早急に健全度が低い施設については改修等を考えていく必要があるのではないかと認識しております。</p>
<p>竹内委員</p>	<p>南中学校の方で、活断層調査の結果、活断層が通っていると見つかったわけですが、一番私が気にしていることは、子どもたちはそれを受けて、子どもたちの反応とといいますか、子どもたちがどう思っているかというところですね。</p> <p>自分たちの体育館やプールの下に活断層が走っているとわかりました。そうすると子どもたちはやはり一定程度、大丈夫かなあと不安感をかなり抱くのではないかなと思います。</p> <p>そう考えるとやはり、活断層のあるところに、さっきも出てきたように建物、学校を建てるということは、安心、安全の観点から考えると、子どもたちが不安を感じるのではないかなと思います。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>他にはよろしいでしょうか。</p> <p>先程の3つの取組み、それから四條畷中学校のアンケートの概要説明を受けてのご意見だったかと思ひます。</p> <p>それでは、7つの案について、これを意見交換しながら複数案に絞込みを</p>

(森田教育長)

していきたいと思います。

各委員の皆さまのそれぞれのご意見をお聞かせいただきたいと思います。

よろしくお願いします。

先程のご意見のなかに、ソフト、ハード面、両面に及んだ取組みが重要となってくるというようなこともあったかと思えます。

それから、活断層の調査結果に基づいたその部分ですね、元々この7案というのは、この調査結果が出る前に、我々がこれまでの経過を踏まえたなかで取りまとめてきた経過がございます。

今日、複数案に絞るということでこの6月20日の総合教育会議のなかで市長と共有したところでございます。

また、6月27日の教育委員会定例会で、7案を絞っていこうということで今日を迎えたところでございます。

よろしくお願いいたします。

竹内委員

私は、北出小学校と西小学校の統廃合、そして新設校としてのくすのき小学校の学校づくりに関わってきた経験から、小規模校のメリット、デメリットについて、実際にもとづき、いくつかお話しさせていただきます。

北出小学校については、児童数が260人で3学年が1クラスでした。

全9クラスですので、今の東小学校と同規模だと思います。

この後、統合になりましたくすのき小学校では540人を超え、全学年が3クラスということで、小規模校から一挙に中規模校程度に、大きく変わったということで、クラスも増え、児童数も増えたということで、小規模校が解消されました。

環境はもちろん変わります。

そして学校生活も大きく変化しました。

まず、子どもたちの変化としましては、1つに、クラス替えが全学年でできるようになったということです。

そうすると、今まで1クラスだと当然クラス替えというものがありませんので、新しい出会い、そして新しい人間関係が広がり、子どもたちの方が色んなわくわく、ドキドキを感じながら、新しく、魅力的にスタートできたかなと思います。

入学式の後のクラス発表のときは、色んな意味のどよめきなどがあったことを記憶しております。

次に、クラスが増えたことによってクラス同士が対抗する教育活動ができるようになったということです。

クラス対抗リレーあるいは学級同士が競い合ったりするような、そういったところで子どもたちの方が意欲的になってきたということで、学校生活に

(竹内委員)

も意欲が出てくるようになりました。

それから、クラブの活動、種類が増える、そしてクラブの人数も増えてくるということで、ものすごく充実して喜んでいる子どもが多かったです。

そして何よりも、学校行事、とりわけ運動会、これは大きく変わりました。

今まで小規模校だったものが、大きくなった形で、特にくすのき小学校の場合、工事の関係で6月に実施したわけですが、個人走にしろ、団競、団演にしろ、非常に今までこじんまりしていたもの、あるいは団競、団演は2学年合同でしていたものが1学年でできるとか、そして何よりも、観覧席が保護者で埋め尽くされたということで、応援の声とか拍手が増え、大盛況だった思い出があります。

というように、運動会のような集団活動が、非常に活発になり、学校の活性化にも繋がっていったと思っております。

次に、教員についてですが、教員一人ひとりの負担が、人数が増えることによって、やや解消されたと思います。

とりわけ、学年1クラスの場合、学級と学年の両方の仕事をしなければならないということで、分担できない、学校の文書なんかについても、人数が多くなってるので分担して仕事ができるということで、教員一人ひとりの仕事量も若干減ったように感じます。

それに伴って、学年会や校内研修などの色んな会議、話し合い等が非常にやりやすくなってきて、職員同士の交流もできるような、そういう環境が出てきたかと思えます。

また、学級の枠を越えた指導であるとか、教師の特性を活かした交換授業、専科指導、あるいはグループ指導など、多様な指導形態が可能となって、このことも学力向上に繋がったと感じます。

統合によってできたくすのき小学校は、集団活動が何よりも活発になって、小規模校では得られなかったことが多く、学校の活性化につながっていったと思います。

北出小学校のときは小規模校であったわけですが、逆に今度は、北出小学校のときの実践を振り返ってみますと、小規模校の特性を活かした、小規模校だからできたこともあります。

当時は市内のなかで、小規模校が1校だけだったということもありまして、市の方から人的配置をいただき、色んな学校活動をしてきたということがあります。

特に、学習面においては、少人数指導が、もちろん人的配置のおかげというところもありますが、少人数指導が充実して、学力向上につながったかと思えます。

(竹内委員)

1クラスの学年では、単元に応じて習熟度別の3分割の授業をしました。個に応じた3つのコースに分かれて、それぞれ担任と加配教員、教務主任と3人それぞれで行うということになりますので、非常に子どもたちも意欲的に学習に取り組めて、また学力向上にもつながっていったと思います。

2分割であるとかT Tとか、色んな指導部の工夫がみられ、クラスや児童数が少ないのでそういったことができたと感じています。

そして、先生一人ひとりが見ることによって、子どもたちの特性に応じたきめ細かな指導が非常にやりやすかったと、そのことが、学力向上にもつながり、子どもたちのやる気も随分引き出されたと思います。

同じことが、生徒指導の面においても言えます。

子どもたちの人数が少ないので、問題行動や不登校等の生活指導の問題についても、まとまりやすく共通理解が得やすいので、動きも早だし、色んな形で解決もしやすかったので、小規模校のときにはそういった面も良かったと考えています。

施設面においても、人数も少なくクラスも少ないので、運動場の割当てにしろ体育館、特別教室にしろ、余裕をもって使えるというメリットがあります。

クラスが少ないので、異年齢集団の活動を強めてきました。要するに、兄弟学級で1年と6年、2年と4年、3年と5年という組み合わせをして、遊びとか掃除とか、色んな教育活動をして、異年齢集団の活動というのは、人数が少なかったということがあったので、大きくできた、これも良かったと思います。

小規模校だからこそできたことというのは非常にたくさんあったと思います。

特に、一人ひとりの学習状況に応じて、個人指導であったり、補助授業、そういったもの、きめ細やかな指導がしやすかったと思います。

後は、地域の協力や保護者の学級参加であるとか、色んな形で、小規模校だからできたかなと思うことがあります。

これも、先ほど申し上げましたとおり、市内で1校であったから人的配置等がしやすかったのではないかと思います。

これが2校、3校と小規模校があれば、かつての北出小学校で私がやってきたようなことはおそらくできないのではないかと痛感いたしましたので、大規模校あるいは中規模校、小規模校によってもそれぞれの良さというものを最大限発揮しながら教育活動を行っていけば、子どもたちの方は喜んでいくのではないかなと、私の経験上から感じました。

森田教育長

只今、竹内委員から、小規模校から中規模校になった、本市で言いますと、くすのき小学校の具体例を挙げていただきました。

<p>(森田教育長)</p>	<p>付け加えて、以前おられた旧北出小学校のころの、小規模校だからこそできたことについて、具体例を挙げて述べていただきました。</p> <p>先ほどおっしゃったように、1校だからこそできたことで、私も同じように本市の教育委員会のなかで人事を担当しておりましたので、やはりその辺のところ、市でできることというのは、大阪府の採用のなか、人員配置のなかで、それが1校であった場合にできることであろうかと思えます。</p> <p>ただ、それでも限られた人員配置のなかでやっていかなければならないという状況はあろうかと思えます。</p> <p>いずれにしても、学校教育を進めていくときに、文部科学省のどの説明を見ても、必ず書いてあるのは地域の状況あるいは子どもたちの実態に合わせて、というような、それぞれの市のなかで判断していかなければならない。</p> <p>この7つの案を、これを複数案に絞っていくというなかで、非常にそこは慎重に進めていかなければならないなと思っております。</p>
<p>小田委員</p>	<p>竹内委員の後なんですけれども、北出小学校と西小学校の統廃合の後、北出小学校の跡地に市民活動センターとか、地域のコミュニティの広場とか、会議場とか、色々を使わせていただいて。</p> <p>結構色々あったんです。</p> <p>統廃合に関して色々な話合いがあったうえのことなんですけれども、その後とても有効に使われていますので、この再編の後の、南中学校の跡、そこもまた、教育環境の充実ということで、残されたとても重要な課題だと思っております。</p> <p>もう1つは、この7つの案なのですが、先程の竹内委員のお話なのですが、3つの課題で、校舎の老朽化解消、校区のねじれ解消、小規模校解消が挙げられました。</p> <p>小規模校解消のところに×がついているところがあるのですが、今お話を聞いていますと、小規模校には小規模校のメリットがあるということも考えられますので、ここも、よく考えなければいけない案だと思います。</p> <p>それから活断層のことですが、先ほど三田村教授の話にもあったように、先日の大阪北部地震の後子どもたちの心の負担を考えると、活断層があると示されたところに学校を持っていくのはどうなのかなと思います。</p> <p>離せばいいということでしたが、どれくらい離れたところに建設するかというところも検討しなければいけないことだと思います。</p> <p>私が1番思うのは、地域のことです。</p> <p>学校がなくなるということは、大きな範囲で防災拠点がなくなるということですので、そのところも考えていただきたいと、検討していただかなければならないところだと思います。</p>

<p>(小田委員)</p>	<p>周りの保護者の不安もそうですし、地域住民の気持ちも留意していただきたいと思います。</p> <p>こういうのは、本当に難しい話だと思いますので、総合教育会議のなか、市長含め、市民の声とか、そういうのをとても考えて検討しなければならないと思います。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>現南中学校は、休校ということで、既に転籍をしています。</p> <p>したがって、この案のなかに南中の存続の案もあるのですが、子どもたちの今の色々な心意的状況を考えて、南中学校の再校ということについては非常に難しいのではないかなというふうに考えます。</p> <p>先程も言いましたように、南中学校の敷地の活断層調査のこともあり、その部分については、そこにどういう校舎を建てようと、実際に調査をし、活断層があるということが明らかになった段階で、学校を建てるということは、市民、子どもの心意的な負担というのは、すごく大きいかなと思いますので、そういう観点からも南中学校の敷地のところに南中学校を再校することは私としては考えられないと思っております。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>今の意見に続くのですが、中学校が今子どもたちが増えて、クラブ活動が増えました。</p> <p>クラブ活動に際しては、吹奏楽部が両方とも人が少なかったので、少し活動の幅が狭かったのですが、今回吹奏楽部は両方の子どもたちが一緒になって活動した、それから音楽の幅が広がったということで、金賞をとることができました。</p> <p>そういう点に対して、保護者も子どもたちもとても喜んでいましたし、今まで四條畷中学校になかったサッカー部やバレーボール部ができて、それに入る子どもたちもいて、運動場や体育館の使い方に工夫が必要な部分もありますが、子どもたちが増えたということで教員の数も増えて、それから部活動が増えてということで、子どもたちに選ぶ選択肢が増えた、一緒に活動する子どもたちが増えたということは、とても有意義なことだと思っております。</p> <p>そういう点から考えて、7案のなかの、南中学校を再建することは子どもたちのクラブ活動に関してはあまり解決策にはなっていないのではないかなというふうに考えます。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>私も中学校を経験しているなかで、毎年の保護者からの強い要望が、クラブを作ってほしい、新しいクラブを作ってほしい。</p> <p>個人的には、四條畷中学校にサッカー部、それからバレー部ができたということは本当に、長年の私ができなかったことで、本当に嬉しいなど、子どもたちの選択肢が増えたということでは、非常によかったかなと思っております。</p>

<p>(森田教育長)</p>	<p>あと、南中学校の再校が出てきているのですが、この辺について他にご意見ございますでしょうか。</p>
<p>小田委員</p>	<p>先日、総合会議のときにも意見させていただいたのですが、南中学校から四條畷中学校に行った子どもたちの気持ちっていうのをとても知りたかったんです。</p> <p>アンケート見せてもらおうと、みんな元気よく、割とスムーズにみんな四條畷中学校のなかに溶け込んで、楽しいという意見もありましたね。</p> <p>楽しみだというアンケートも結構な人数がいましたので、よかったなと思っています。</p> <p>保護者の意見のなかで、通学路の懸念というものがすごくあったのですが、それも、教育委員会が万全の準備をしたりとか、まちのボランティアの方たちが立ってくださって、それも一応の合格点をもらっているのではないかなと理解しております、このアンケートで。</p> <p>それが1番気がかりだったのですが。</p> <p>ということは、まあ中学生の気持ちは四條畷中学校で大丈夫かなと思うんです。</p> <p>あとは、東小学校の小学生をもつ保護者の気持ち、小学校がなくなって、7案どこにいくにしろ、四條畷小学校に行くにしろ、南小学校に行くにしろ、義務教育学校、小中一貫校に行くにしろ、お母さんの気持ちも少し聞いてみたいなと思います。</p> <p>だからこれをしっかりと決定してしまうのではなく、そこに住んでいる保護者、市民の方々の意見も吸い上げていかなければいけないと思います。</p> <p>7案の続きなんですけれども、この案だと南小学校、東小学校はこのまま残ることになると思います。</p> <p>少数クラスの利点というものはとてもよくわかるのですが、やはりいじめなどが発生した場合の課題は残ります。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>それは7番の案でしょうか。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>7番の案についてです。</p> <p>クラス替えの利点としてはやはりいじめなど人間関係に何かトラブルが起きたときに、対処できるということが挙げられていると思います。</p> <p>運動会にしても、東小学校の運動会を去年見せていただいたのですが、1年生と2年生が同じ競技をする、同じ演技をするということは、1年間の差というのは身体的にも能力的にも現れるところですので、学年には学年に合ったものをさせてあげたいということが保護者の意見でもありました。</p> <p>なので、その学年で1つのことができるという、ある程度の人数は必要で</p>

森田教育長

はないのかなというふうに感じました。

文部科学省の方から、適正規模というのが出されているのですが、例えば今小学校の例が出ましたが、12クラスから18クラスというような形で出されています。

これを単純に計算しますと、小学校の場合でしたらこの場合、12の最低は各学年2クラスということになるわけです。

中学校でいきますと、12クラスとといいますと4クラスの3学年、最低がここで、そして18のところでしたら、 $3 \times 6 = 18$ 、小学校でしたら3クラスが、先ほど竹内委員がおっしゃったように、小学校の3クラスというのが適正規模だということです。

中学校の場合でも、私の経験上、やはり4クラスというのが1人で1つの学年を教科を教えることができる適正規模だと、これが多くのクラスになっていきますと、18を超えていきますと、2人の教員が配置されることになります。

それよりもクラス数が減ってきますと、今度は何が起こってくるかというと、教科が、総数で人数が決まってくるので、どの教科に何人かというのは学校の校長が決めていくわけです。

そのときに、時間数の少ない教科というのは、1人をそこであてがってしまいますと、人数が他の教科に回っていかないということを非常に苦慮しているわけです。

だからこそ、やはり、小規模校の解消というの、子どもたちに同じような学習を保障しなければならないということで、これは長年、ずっと言われ続けてきたことになります。

ただ、先ほど竹内委員がおっしゃったとおり、それが特化された形での、特色あるという形での配置の仕方であったならば、それが複数校でなければ、1校だけであれば、何とかできるのですが、ただ、そこには条件がついてくる。

この間、校長先生方とお話しさせていただいたなかでも、南小学校を経験された校長先生、東小学校を経験された校長先生方は、やはり、それは「人」であり、そのところで、配置があつて、加配教員があつて初めて、学校運営が何とかできるわけで、国が定めるクラス数よっての教員定数のなかでは、非常に辛い思いをしている、という話がありました。

竹内委員

少し、昔のことを思い出したのですが、くすのき小学校に着任したとき、学年が3クラスになったんです。

3クラスというのは非常に色々な意味で、理想的だったなというふうに私自身は感じております。

なぜかと言いますと、例えば運動会1つとっても、北出小学校のときには

	<p>なかったことで、全学年3クラスありますので、3ブロックに割って、ブロック制の運動会というのを初めてやったんです。</p> <p>赤と白と青かな、この3種類あったんですけども、そういう形で、応援合戦にしる、色んな意味で競争というか、友達の輪も盛り上がったかなと思います。</p> <p>逆に2クラスの場合だったら、紅白になってくると、クラスマッチもそうですが、どっちが勝っても勝ち負けしかないんですよ。</p> <p>そうすると、片一方が強かったり片一方が弱かったりすると、ずっと負けっぱなしなんてこともあったりして、3クラスの場合だったら色んな相乗効果みたいなことも出てきて、すごく良かったかなと思いますので、そういう意味で子どもたちにとって、どちらが、と考えたときに、私の経験では子どもたちの方は3クラスの運動会だったり、色んな行事の方が、盛り上がるという表現はおかしいですが、子どもたちは意欲的に頑張ったかなと今、思い出しました。</p>
森田教育長	<p>今、小規模校、中規模校、適正規模の学校ということが話題になってきているのではと思いますが、7つの案を見ていただいたなかで、その辺のなかで、これを考えていったときに、よりよい教育環境として考えられる案というのはどういったものがあるのか、今少しその辺のところに絞って考えてみましょう。</p>
小田委員	<p>今お話しを伺うと7案はないですね。</p> <p>今までどおり、というのは。</p> <p>両方とも2つの小規模校、南中学校も小規模、小規模校が3つということになるので、過去の経過や実態などのお話しを伺うと、教員を増やすということもきつくなるし、7案はだめって言い方はあれですけど、もうカットされますよね。</p> <p>どうでしょうか。</p> <p>現状ってことですよ。</p> <p>どうですか。どうなんでしょうかと思います。</p>
山本教育長職務代理者	<p>今、小田委員が言われたとおり、7案は、変えようというのが教育環境整備計画の根本でしたので、私も同意見です。</p> <p>実は、教育環境整備計画の1番基本は、3つの近々の課題があったのですが、2小学校1中学校にするという考え方があり、その形のうえだけではなくて、教育内容として、小中一貫教育をしよう、という考え方がありました。</p> <p>そういう意味で言うと、義務教育学校の案が何点かあるのですが、義務教育学校については、他市を見ると、相当有効な教育をされているという市も多いと思いますし、ただ全国的には、一律のように多くはなっていない</p>

(山本教育長職務
代理者)

いという現状を踏まえ、本市において義務教育学校を作るかどうかということについては、考えていくべき、議論していくべきだなと思っています。

ただ、それが今の案のなかの3案とか6案とかにありますように、現東小学校、南小学校と南中学校で義務教育学校を創る、あるいは四條畷中学校の一部との関連で義務教育学校を創っていくという、東小学校南小学校のところですね、で、義務教育学校を創っていくということが、本市にとって1番最適であるかどうかについては、さらに議論していかなければならないと思います。

もう一点は、これは我々には判断できない部分があって、他市では義務教育学校を創るのに、相当な財源を確保しています。

実際、義務教育学校を創るときに、それだけの財源の確保が本市で可能であるかどうかということも議論しなければなりません。

そういう観点からいうと、義務教育学校も、これから考え得る1つの学校の形として最終案に残すべきではないかなと認識しています。

森田教育長

私が教育長になってから、この義務教育学校、つまり小中一貫校というのは、これは否定はしてこなかったつもりです。

というのは、本市の学力向上3カ年計画のなかにも、連携、一貫教育という9カ年の教育というものをずっと言い続けてきて、この連続性の必要性というのは、これは今の教育の多くの課題を抱えたなかでは、ここの9カ年を見通した形で、どんな本市の子どもたちに育っていくのかという願いというのは、一貫して持っておかないとだめだと思うんです。

そのための教育環境をどのようにしていくか、この考え方は色々あると思うんです。

我々が昨年、文科省の方に行って、小中一貫校の小中一貫教育についての説明を受けてきたなかで、現在、施設一体型の学校が全国にどのくらいあるのか、あるいは、小中一貫校あるいは義務教育学校として、分離型、併設型、そういった様々な形で、小中一貫教育を進めている色々な各自治体の取組みを聞いてきたところだと思います。

本市にとって、小中一貫教育として、一貫校がいいのか、義務教育学校とするのがいいのか、これは今即座に判断することは、私は難しいんじゃないかなというふうに思っております。

近隣市の方でも、確かに2クラスで進めているところもあります。

これの結果というのは、まだ、開校して間もないですので、出ておりません。

あるいは、北河内のなかでも、小中一貫教育を進めるということで、施設分離型で進めようとしている市もあります。

本市にとって、そのところはしっかり、学校再編に関わって、考えていかなければならない。

<p>(森田教育長)</p>	<p>しかしながら、これは、最後はやはりめざすところは、私は小中一貫教育だと、小中一貫教育であろうと、それが一貫校であるのか、義務教育学校とする方が効果的なのか、この辺りは、今のところ、この状況のなかで少し難しいのかなと思います。</p> <p>それは、今後とも前向きに研究していきたいとの思いを強くしているところです。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>先程の活断層の調査結果と、それに対して、学校として使用しない方が望ましいという学識の先生のご意見も踏まえると、1案と3案の新しく学校を建てるというところは、不可能ではないとしても、難しいのかなと考えています。</p> <p>4案の件については、東小学校の方から新小学校を創って、そちらの方に通学する、というのは、隣の5案と比べると、東小学校に通っている子どもたちの通学のしやすさから考えると、5案の曙小学校へ通学するという方が望ましいのではないかという風に考えます。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>教育環境整備計画に初めからずっと関わってきた者としては、163号とJRで4つに分けて、そこに学校を置くという考え方をしてきました。</p> <p>その1番の基本は、学校という問題だけではなくて、地域コミュニティあるいは防災拠点という考え方で、そういうことをしてきたとっております。</p> <p>ただ、そこに、南中学校の活断層の問題が出てきて、その部分については、活断層調査に入ったという形になって、従前の教育環境整備計画の修正が入り、今になっていると思います。</p> <p>校区のねじれでありますとか、あるいは小規模校の問題、特に老朽化の問題はどの案を取ろうと、早急に特に学校を色々見させていただいて、忍小学校なんかは早急に対応しなければならない、忍小学校だけには限りませんが、対応しなければならないと思っています。</p> <p>その3つの緊急の課題のところ、活断層の問題があったのかなという考え方をします。</p> <p>そうしますと、吉田委員が言われたとおり、我々が考えられるところでは、活断層の調査をした南中学校について、果たして、学校施設が可能であるかどうかという判断ができませんので、現行の教育委員会の案としては、南中学校のところに学校を建てるということは、我々の側からは提案しにくいかなと思っています。</p> <p>ただ、防災拠点としての必要性がありますので、そういう意味で言うと、市長部局のまちづくりの全体計画に関わる事柄に、委ねなければならないかなと思います。</p> <p>したがって、全体の枠のなかで、学校建設もありということになれば、再度検討する余地はあるかなと思っています。</p> <p>いずれにしても、校区の見直しはすでに進んでますので、この校区の見直</p>

<p>(山本教育長職務 代理者)</p>	<p>しについては、堅持していきたい、今、校区のねじれを解消し、転籍という か違う学校に校区がいて、さらにもう一回元に戻すということは考えられ ない、子どもの負担を考えれば、それは絶対避けるべきだと思います。</p> <p>小規模校の問題につきましては、避けるという形で我々は進んできました けれども、現行のなかでいくとやはり、今小学校でいうと2小学校ありま すが、全部を、一気にするというのもしんどい部分がありますので、とりあ えず数を少なくする、そして市長が提案されているまちづくりのなかで、住 民の理解を得て、子どもの数を増やすんだということが、市長が言われてい ることですので、そういうところをもう少し長期的な視線で考えていくのも、 1つの考えかなと思っています。</p> <p>それと、どうしても避けられないのが、費用の問題がありますので、教育 委員会としては、費用をある程度考えますけれども、どこまで費用を度外視 していいのかというのは私自身も判断ができませんので、それは総合教育会 議に委ねるべきかなと考えます。</p> <p>そういう観点から、皆さんの意見を聞くと、そろそろ案としては、3案程 度に絞られているのではないかなと思います。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>2案に関しては、とても理想的だと私は思っています。</p> <p>四條畷小学校の劣化も大分進んでおりますので、2案にするときには、学 校を建て替えていただけというふうに認識しております。</p> <p>その点では、保護者の目線からしても、安心だと思います、</p>
<p>竹内委員</p>	<p>私は先程から話してきたように、義務教育学校について、少し考えを言 いたいと思います。</p> <p>子どもたちっていうのは、小学校から中学校へと上がるにつれてだんだん と心身とも成長していきますが、当然、小学校から中1ギャップというもの があります。</p> <p>繋がりや連続性がありますので、小中学校の教員が協力して、小中一体と なって指導するという理念、これは非常に重要なことだと思いますし、かつ て私自身も、小中連携というのにかなり力を入れて、子どもたちが困らない ように、スムーズにいけるように、ということをやってきました。</p> <p>その精神というものもとても大事だと思っていて、ただ、小規模校の 解消のための、義務教育学校や施設一体型の小中一貫校を創るというのは、 私はいかなるものかと考えます。</p> <p>様々な条件とか、さっきも言っていた財源の問題であるとか、通学とか色 んな問題が関わってくるので、そういった意味では、この精神を活かしても らって、ここだけではなく、西中学校や田原中学校といった、それぞれ中学 校もありますので、そういった意味で小中の連携校の継続的な指導について は、十分な検討を進めていくべきかなと思っています。</p>

小田委員

やはり活断層は怖いんですね。

私自身も地震が怖いですし、何回か、東北もあって、熊本もあって、まさか起こらないと思っていた大阪まで地震が起きて怖いので、この活断層のところに学校をというのは、やめていただきたいと思います。

個人的にです。

ということは、1案と3案ですか、南中学校の場所に学校を創るというのはなしかな、と思います。

先ほど言いました小規模校3つという7案もなしになってくるので、この辺で絞られてくるのではないかと思います。

森田教育長

先ほど、山本職務代理から、学識者の見解のなかで、迷う部分があるというところが出されていたかなと思います。

なるべく利用しないことが望ましい、こういう表現と、それから、できる限り断層から離れた、と、この辺のところは我々の部分でどう解釈していったらいいのか。

ただ、安心、安全というのが5,000人アンケートのなかでトップを占めている。

もちろん、校舎の老朽化についても上位を占めている。

ここを無視するわけにはいかないです。

最近の自然災害を見ていますと、本当に、いままで、熊本地震にしてもそうですけれども、他県の事象という感覚がどこかにあったのではないのでしょうか。

ですが、今年の高槻北部を震源とする大阪北部の地震の災害を見る限り、どこで起こってもおかしくない。

こういう調査をしたなかで、というのを考えたときに、ここの部分というのは非常に、教育委員会としてはなかなか難しいものがあるんですが、ただ、できる限り断層から離れたという、この部分のところの含みというのがどうなのか、これは今後、我々のなかでは判断するのは難しいのではないかなと。

午後から総合教育会議が予定されておりますので、そのなかで市長の意見も聞きながら、我々としては、今のお話しのなかをお聞きして、2案、5案、6案のあたりで、一旦、原則としてまとめさせていただきますけれども、これからも意見交換をさせていただくわけで、当該地域におられる方々が、実際にどのようなお考えでおられるのか、その辺のところをお聞きして、こういう活断層調査のなかで断層があるということはわかったのですが、しかし、土砂災害警戒区域にも入っています。

そのところを含めまして、我々が今進めていることがご理解いただけるのか、そうではなくてここのところはこうだというようなご意見をお聞きしていく。

<p>(森田教育長)</p>	<p>もちろん、7つも持っていきながらということで、こんな感じで午後から臨みたいと思いますけれども、原則は、2案、5案、6案という形でいきながら、他、何か追加はありますか。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>それと、東小学校の問題について全く触れておりませんでしたので、東小学校については、小規模校の解消という部分でしか触れてなかったかと思うのですが、東小学校自身は土砂災害警戒区域のなかにありますし、今回の地震でも、体育館の一部が落ちるということもありましたので、そういう災害時に危険を伴うという観点から、東小については、小規模校という部分だけではなく、実際の安全という部分から、他の学校に再編されるという形が望ましいように思います。</p> <p>それと、今、教育長がまとめられましたように、私も、一応、その3案をもって、総合教育会議で市長の意見を聞きたいと思っております。</p> <p>何分、費用の部分、あるいはまちづくり計画の全体像の部分と、我々教育委員会の枠を越える部分がありますので、そのあたりの部分を、市長の意見を聞いて、十分に協議できたらという風に思います。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>今、費用という面が出たんですが、平成32年に向けまして、実際に平成32年はないわけですが、新しい学習指導要領のなかで、新たに費用を、我々から要求していかなければならない部分も多々ございます。</p> <p>その1つが、プログラミング教室です。</p> <p>それから、この最近の予想外の天候、雨の多い日、あるいは暑さが異常に高くなっている。</p> <p>子どもたちが、このなかで今後勉強していかなければならない。</p> <p>教育課程のなかで、年間授業実数が、小学校4学年、5学年、6学年が1015時間になっている。</p> <p>中学校は元々1015時間です。</p> <p>これをやりきっていかなければならない。</p> <p>こういったときに、これを見越して、全国的に夏休みが短縮されたりとか、という形にもなってまいりました。</p> <p>その短縮するのがなぜかという、1015時間を消化しなければならない、履修しなければならない。</p> <p>でも、この暑さのなかで、1つの空調設備が故障した、2つ故障した、3つ故障した、それに耐える体力が、本市にあるのかといったときに、私はこの間のなかの、この暑さで、子どもたちの教育環境に課題が生じているという声を聞いて、本当に、教育委員会で、そういう緊急用のお金を持ちたいとも思いました。</p> <p>こういったことを進めていくためにも、財源は確保していかなければなりません。</p> <p>そして、よりよい教育環境を整えていかなければ、あるいは防災面での拠</p>

(森田教育長)

点としての学校が今まで担ってきたこと、そんなことを考えてみたときに、原則、2案、5案、6案という形で、今、決まろうとしておりますけれども、我々だけで単独で、こうだ、というのはなかなか難しい部分があるかと。

最後、まとめさせていただきますが、我々はこれまで、児童、生徒にとってよりよい教育環境というものの整備を最優先にして、検討してきたと思います。

これは私も、常日頃から、この部分を1つの根幹として、やってまいりました。

私が校長時代はそうでしたけれども、学校から、あるいは市内の子どもたちの命が奪われるということは、あってはならないことです。

これは、どんな想定外、あるいはちょっとしたミスでということ、それはあってはならないことだということで、常日頃から、校舎内にいる子どもたちの音に、敏感に反応してきたつもりです。

私が行った当時、平成20年というのは、非常に音の大きな学校でした。常日頃から、ガラスの割れた音とか、校舎が破壊されるような音が、多々ありました。

しかし、それがだんだんと、音がなくなってまいりました。

煙草の量も減ってまいりました、ごみの量も減ってまいりました。

そうすると、子どもたちの学力も上がってきたし、よりよい教育環境になってまいりました。

そういうのをどの市内、子どもたちがどこに住んでいようとも、同じような環境にしていかなければ、今、決めようとしている2案、5案、6案がそれが全てがいいのかどうかについては、一応ここは原則として決めさせていただきますけれども、午後からの総合教育会議のなかで、市長ともう1度、意見交換をしながら、そして、共有して、その案をもって、地域に出向いていきたいなど、このように私は思っております。

これまで私も就任当初から言っておりました、3つの緊急課題、これを軸に、児童、生徒の安心、安全を第一に、今後も引き続き議論していきたいと思っております。

今日を迎えまして、これまでの活断層調査、それから5,000人アンケート、公共施設等劣化度診断の調査結果を見まして、このなかから、もちろん畷中学校のこの近々のアンケート調査、それからそういった様々な要素を考えたなかで、これを補完的に捉えたときには、2案、5案、6案に絞り込みをさせていただきたい、このように考えております。

そして、我々の域を超えているという部分、まちづくりの観点をを用いる、そういった必要もあろうかと思っております。

これまで地域コミュニティや、防災拠点として存在してきた経過を踏まえますと、その辺の枠を超えたなかでの検討も必要かと思っておりますので、この3

<p>(森田教育長)</p>	<p>案を原則に置きながら、午後の総合教育会議で市長に、ありのままのこの議論の概要を伝えさせていただいて、総合的な方針を共有したいと思います。</p> <p>この辺りで、非常に苦しいんですけども、まとめさせていただいて、よろしゅうございますでしょうか。</p> <p>それでは、ここでお諮りいたします。</p> <p>議案第12号 四條畷南中学校を含む今後の学校再編整備について、以上のように決をとって、意義ございませんでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>意義がないようですので、議案第12号については、このように決しました。</p> <p>それでは、本日予定していた案件の審議は終了いたしました。</p> <p>その他の案件はございませんでしょうか。</p>
<p>板谷教育総務課長</p>	<p>今後のスケジュールについて、ご説明させていただきます。</p> <p>本日午後からの総合教育会議での内容を踏まえまして、8月6日以降は、関係地区代表者の方々と市長、教育長との意見交換をお願いしてまいりたいと考えております。</p> <p>その後、8月下旬から、四條畷小学校、四條畷南小学校及び四條畷東小学校区にお住まいの保護者及び地域の皆さまとの意見交換を重ね、それらの結果を勘案のうえ、8月末をめどに最終案を導き出してまいりたいと考えております。</p> <p>なお、校区の皆様との意見交換会につきましては、8月20日(月)19時から四條畷南小学校、22日(水)19時から四條畷小学校、24日(金)19時から四條畷東小学校、25日(土)13時から四條畷小学校、26日(日)10時から四條畷東小学校、26日(日)15時から四條畷南小学校で開催する予定です。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>それでは、これもちまして、臨時会を閉会いたします。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>

上記会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するためここに署名する。

平成30年8月13日

四 條 畷 市 教 育 長 森 田 政 己

四條畷市教育委員会 委 員 竹内 千佳夫